キャサリン ブロック カナダ出身の元キリスト教徒（下）

:

明:真理を 出す努力の末、彼女はイスラ ム改宗へと かれます。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 女性

より: キャサリン ブロック

日22 Jun 2015

集日 22 Jun 2015

私はあの身 さをまた感じ、ひょっとするとやはり神は存在しているのではないかと思いました。慎重に人生の出来事を　してみると、偶然や が神による祝福であったものの、私はそれに づかず感 すらしていませんでした。私自身は忠 でなかったにも わらず、神は常に しくしてくれていたのです。私の耳と足はお清めによる洗 によって心地さを感じていました。それは私を清め、神への礼 をできるようにするものです。

神は に素晴らしき存在です。私は畏敬と　の念を抱き、平 を感じました。どうか正しき道をお示し下さい。「世界は偶然の 物にしては　 ぎ、美し ぎ、 和を保ち ぎではないの? 」「それは 化の 程の 物ということを盲目的に信じてしまっていいの? 」「科学は神への信仰へ立ち返りつつあることを知らないの? 」「そもそも科学とイスラ ムはお互いを否定すらしていないことも知らないの? 」　 私は自分の空想の中の陪　に腹を立てました。彼らはこうしたことすら べていないのでしょうか?

ひょっとすると、これは最も 定的な道なのかもしれません。ラジオのインタビュ である物理学者が、いかに近代科学が19世 の物 主 的な 定を てたこと、そしてとても多くの象が、知的　 なくしては全く 明のできないという 解を持っていることを 明していたのをえています。科学の　は なる物理的 象の消 的な 察ではなく、 察は物理的 象の 生を可 するものであり、それゆえ知性が宇宙における最も原理的な法 であるかに えました。

私はさらに みました。　的に 化 を依然として信じているのは、 固な人 学者だけで、彼らは失 することへの恐れから、 もそのことを声高に指摘しないということを　しました。私のジグソ パズルは崩れ始めました。

「じゃあ、あなたは神が存在するということに めたのね。あなたは一神教徒だった。でもキリスト教も一神教なのよ。それをあなたは受け いでいるの。なぜ 教するの？」まだこれらの疑 は 拭できていませんでした。「でも、あなたはこれが最も回答の　な　だということを理解しなくちゃならないのよ。」私はにこりと笑いました。

バイブルは科学に反しているものの、クルア ンは っていることを知りました。私はバイブルの物 を文字通り解 したかったものの、そうすることはできないと知りました。科学的事 は、バイブルの 述を反 します。しかし、科学的事 はクルア ンの 述を反 するどころか、ときには 明の付かないクルア ンの章句を 明すらします。それには 愕しました。

河川の水が海に流れ む 、海水とは混ざらないという 述の章句がありますが、そこでは的 な 明がされている上に、惑星の 道についても言及されています。7世 の科学は、これらのことについて全く 知でした。ムハンマドの比 なき 智はどういったことなのでしょうか？ 私の心はクルア ンへと惹かれていましたが、私は抵抗しました。

私は再び教会に通い始めたものの、行くたびに を流すことになりました。私にとってキリスト教は辛いものでしかありませんでした。たくさんのことが理にかないませんでした。三位一体 、イエスが神の化身という概念、神へ直接ではなくマリア、 人、イエスを通して崇 することなどが代表的なものです。　者は、神について考える は理性をてなさいと言いました。三位一体 は理にかなわないのはもちろんのこと、そうなるよう　されたものでもありません。私はさらに掘り下げてみました。最 的には自分の文化、　、家族を てることなどできっこないと思いました。そんなことをすれば、 一人として理解しようとはしないでしょうし、私は孤立してしまいます。ただ良きキリスト教徒であるよう努めるべきかも知れないと思いました。

私はさらに多くを学ぼうと心がけました。 活祭がイエスの死から数百年 に制定されたものであるということ、またイエス自身は一度たりとも神の化身などと主 したりせず、たびたび「人の子」であると言っており、三位一体の教 もイエス 300年 ってつくられたものであること。さらに私が 、一 一句に集中しつつ信仰深く唱えていたニカイア信が、イエスが神の子であるという立 を政治的に 定させる少数派の会合によって き されたものであるということを知りました。そこでは、イエスが神の使徒であるという多数派の 解が、永久に抹消されたのです。

私は怒りを抑えることができませんでした。なぜ教会はこういったことを教えてくれなかったのでしょうか。まあ、その理由はわかっています。人々は、どこでも神を崇することができると理解しており、そこでの崇 は理にかなったものだからです。私は3つの神ではなく、父でも子でも でも、主イエスや 人やマリアでもない唯一の神を崇 しました。ムハンマドが真の使徒であり、クルア ンは神の言 ということはあり得るのでしょうか? 私はクルア ンを み けました。

そこには、 追放の 任はイヴだけにあるのではないこと、イエスが使徒であること、不信仰者は信仰者を嘲笑うこと、人々はムハンマドに下された 示の正 性を疑うものの、それと同等の信 性 安定性 合理性のあることを こうとしても失 に わることなどが されていました。それらは真 だと思いました。イスラ ムは神について考察する には知性を 使することを求め、知 の探求を め、信仰する者（ユダヤ教徒／キリスト教徒／ムスリム等）は を受けると告げます。それは至 包括的な宗教に えました。私たちは再び立ち上がり、 手を 膝に置いて屈みこみ、お辞 の姿 を取りました。他にも何か神に言えることはないでしょうか?
礼 はとても短く感じられたため、十分に言えることを考えられませんでした。

一 の 作で息切れしてきたため、依然として鼻をすすりながらも、呼吸を整えようとしました。「あなたは本当に女性を2 市民に める宗教に私が入信するとでも思っているのですか? 」私への 者に し、私は返答を要求します。ムスリム 国では欧米 国同 、多くの女性虐待が行われているものの、それは真のイスラ ムではありません。そしてベ ル を取り上げないで下さい。女性がヒジャ ブをまとうのは、神がそう求めているのだとい

うことを知らないのですか? 彼女たちは神の言 を信じているからそうするのです。

しかしながら、ヒジャ ブを着ける勇 をどうやって い立たせるべきでしょうか?
私は周 から 立ち、人々から凝 されてしまうでしょう。私は外出の には 力目立たないよう努める性格です。もしも友人たちに つかってしまったら、一体彼らは何と言ってくるでしょうか? ああ神よ、お助け下さい!

私は 化の に数ヶ月もの に渡って留まり け、ジレンマは日に日に くなっていきました。どうすべきなのでしょうか? 古い人生を て、新しいものを始めるべきでしょうか?
しかし、私にとって公の でヒジャ ブを着けることは不可能です。人々から凝 されてしまうでしょう。私は神によってもたらされた分岐路に立っています。私には、知性と共に心地よく同居する新たな知 があります。 信に うべきでしょうか、それとも古き道に留まるべきでしょうか?
人生において なる 晴らしを持った 、留まることなどできるのでしょうか?
新たな一 が耐え く大きなものに映る 、いかに わることができるのでしょうか?

改宗に必要な言 を してみたりもしました。「唯一なる真 の神以外に神はなく、ムハンマドは神の使徒である」とてもシンプルで、私はそれを信じています。ならば改宗すれば良いものなのですが、私は抵抗しました。 日 日、私は わりのない の中をくるくると回っていました。神は分岐路の片方で待ち えていました。「キャサリンよ、来るのだ。私はここまであなたを れてきたが、ここを渡るのはあなた一人でなければならない。」私は夜、 のライトに照らされて身 きできなくなったカンガル のように静止してけず、立ちすくんでいました。そして遂にある夜、神は最 のひと押しをくれました。
私は夫とモスクの前を通りかかりました。耐え いような感情が き上がりました。私の中の声は言いました。「今改宗しなければ、もう して改宗のチャンスはないのよ。」
それは本当だろうと思いました。「よし、やろうじゃないか。もしも彼らがモスクに入れてくれたなら、やってやろう。」しかしそこには もいませんでした。私はモスクの外の木の下でシャハ ダを言いました。私は待ちました。私は即 の安 、雷 のとどろきと、 の晴れ渡りを期待しましたが、それはやってきませんでした。

以前と全く同じ感 でした。私たちは再び跪きました。ここからは世界が非常に なってえます。有名なフットボ ル 手もこのように跪いていたなと、礼 用敷物に垂れたヒジャブの切れ端を ながら思いました。私たちは皆同じで、神の御前に等しく 虚になります。そしてまっすぐに座ると、礼 の先 者は何かの言 をつぶやき、右手の人差し指を空でかしています。私は再び敷物へと目をやりました。礼 用敷物の 、紫と の色 が安心させました。

モスクの入り口の 色は私にこう告げます。「私はここにいます、落ち着いていれば私は つかりますよ。」私の の は き、皮 が引き まった感じがします。私はここで何をしているのでしょうか?

なる神よ。私がここにいるのは私があなたを信じているからで、私はクルア ンの力 く威 のある言 を信じ、あなたの使徒ムハンマドの 言者性を信じているからです。私は心の中で、自分の 肢が正しいものであるということを 信しています。私が き信仰心によってあなたに良く仕え、この新たな自分と人生を み けることのできる勇 をお与え下さい。私は笑 と共に立ち上がり、礼 用敷物を2つに折りたたみ、なめらかな 色の 信との次回の出会いまでそれをソファ の上に待 させました。その 、 は晴れ渡り始めたのです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/1838

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。